

方の語が使われたが良い。英語国民がどう思おうと、その方が誤解が生ずる危険性が少ない。

(3) それでも referee がまだ文句をつけてきたら、言つてやんなさい: “Read the last chapter of Professor Potter’s ‘Our Language’<sup>6)</sup>, and appreciate that your having to read my un-English English is a part of your price of your having not to learn this awfully amorphous lingo!”

文 献

1) H. W. FOWLER: A Dictionary of Modern Eng-

lish Usage, 2nd ed. (1965) [Oxford University Press]

2) Sir E. Gowers: The Complete Plain Words (1971) [Penguin Books Ltd.]

3) 氏家信久: 鉄と鋼, 67 (1981), p. 200

4) M. NURBERG: Questions You Always Wanted to Ask about English (1972) [Pocket Books, New York]

5) The Key to English Series: Two-Word Verbs (1964) [Macmillan Publishing Co., Inc., New York]

6) S. POTTER: Our Language (1966) [Penguin Books Ltd.]

コ ラ ム

“ですな症候群”

「最近ですな、テレビとかを見たりしてもですな、まあ非常に気になることがですな、あるように思うわけであります。」「まったくおつしやる通りですな、皆さんどうしですな、“ですな”や“わけであります”を多発するのでしょうか。話をしている本人はですな、全くそのようなことにまあ気がついていないとかように思います。特にですな、話すことのプロであるですな、政治家とか、放送記者とか、解説者・司会者を始めとしてですな、やはりテレビの前に立つとですな、どうもいつそうひどくなるようです。」

「この点についてですな、担当の課長さんに伺つて見たいと思います。」「関係機関としてもですな、この“ですな症候群”のですな、まん延につきましては早急に抜本的な対応策をですな、構ずる必要ありと認めてはいるのですが、やはり何といてもですな、国民一人一人がですな、自覚することが根本的な解決ですな、手段であるとかように考えておるわけであります。」

「つぎに有名大学の教授にですな、一つ話を伺いたいと思います。」「そうですな、やはりですな、話すべ

き内容がほとんどない、こういつた場合にですな、時間をうめようとする、これが第一の理由であると思えます。もう一つのですな、理由といたしましてはですな、自分の話す内容に自信がなく相手の同意をですな、確めなければ不安である場合になると思えます。まあ、こういつた場合にかかるある種のアレルギーだとかように思っております。」「最近のヤングにですな、みられるいわゆる語尾を上げる話法もですな、また you know を多発するですな、英語の上手な人もですな、症状は異なっておりますが、まあ、全く同じですな、病根であると思われわけであります。」「晩酌をですな、毎晩やつてもですな、アル中とはいえませんが。適量の“ですな”は話をつなぐですな、気付薬と思われわけであります、あまり多いとかえつて聞き苦しいものになるわけです。」「私はですな、逆にですな、自分もこの病気にかかっているのではとですな、心配しすぎることを方をですな、専門家といたしましてはですな、まあ非常に心配しているわけであります。」「どうも貴重な御意見ありがとうございました。」

「この原稿がですな、冗長だということですから、ぼつにならなければと思っております。」

(東京工業大学精密工学研究所 鈴木朝夫)